

Monthly Report

Vol.157 / 2019 .MAY

学校法人朴沢学園創立140周年記念式典挙行

～ 裁縫教育を通し近代日本女性の地位向上に大きな役割を果たした松操私塾創立から140年の歩み・さらなる発展・飛躍へ ～



朴澤泰治理事長・学事顧問が挨拶を述べる様子

令和元年を迎えた五月晴れの5月11日（土）明成高等学校体育館において、学校法人 朴沢学園創立140周年記念式典が挙行され、来賓、松操会（旧：朴沢女子高等学校・現：明成高等学校卒業生の会）、法人事務局をはじめ明成高等学校生徒・保護者、仙台大学関係者など、集まった約1,200人は、宮城県はもちろん日本の女子教育におけるパイオニアとしての誇り高き歴史を振り返り、学園のさらなる発展と飛躍を誓いつつ、心より慶び合う「140年目の節目」を刻みました。

松操私塾（朴沢学園）は、明治12年（1879年）明治初期国家的な課題の一つであった女子の就学率を高めるため、裁縫教育を通して女性の持つさまざまな能力を引き出し、近代日本女性の地位向上を目的に、現在：仙台市青葉区一番町二丁目の地に創立されました。

知性と品格ある校風および「実学と創意工夫」を理念に掲げ、「一斉教授法」など画期的でわかりやすい教育をモットーとし、松操私塾（朴沢学園）には、九州から北海道まで全国より子女が集まり「嫁にやるなら朴沢へ、嫁をとるなら朴沢から」と称されるほどとなりました。

そのような名門校にも時代の嵐は押し寄せ、昭和20年（1945年）の仙台空襲によって学校が廃墟となる苦悩の時期はありましたが、再建に尽力した後継者や多くの方々の手により見事復興を果たしたばかりか、昭和42年

（1967年）には船岡に東北・北海道で唯一の体育系大学「仙台大学」を開学し、創始者の開学当初から目的であった教員養成について、戦後の学制改革により途絶えていたところを高等教育機関として復活させるとともに、さらなる飛躍をとげました。昭和49年（1974年）に仙台市青葉区川平地区に新校舎を落成、朴沢女子高等学校と法人本部を移転。平成4年

（1992年）に校名を明成高等学校に改称、その4年後の平成8年（1996年）には男女共学とし、これまでに4万1千人あまりの優秀な卒業生を輩出しています。

次ページへ続く

＜目次＞

・学校法人朴沢学園創立140周年記念式典挙行	1・2
・第97回全日本選手権 男子舵手なし フォアで日本一 ・男子109kg級 保科 魁斗（4年）が準優勝	3
・第99回天皇杯全日本サッカー選手権大会 宮城県予選 4年ぶり3度目の優勝!! ・第99回天皇杯全日本サッカー選手権大会 全国大会1回戦 ・南奥羽地区大学春季大会2連覇！！	4
・NHK杯でも存在感 ・全日本インカレへ弾み 男子3位、女子7位 ・6年ぶりインカレ出場決定（28回目）	5
・東北学生柔道優勝大会で男女同時優勝！ ・活動報告 春季リーグ最終週 （リーグ戦4連覇） ・東北学生春季テニストーナメント大会の結果	6
・宮城県議会スポーツ振興調査委員会が本学を視察 ・ストレッチ・テーピングでランナーを支える	7
・第26回郡山シティーマラソン大会の協力をしました ・明成高校運動部の新入生に対するコンディショニングチェック（FES）を行いました ・令和元年度 仙台大学同窓会「社員総会」開催	8
・避難訓練を実施しました ・バドミントン部：第66回東北学生バドミントン選手権及び令和元年度東北学生バドミントン春季リーグ戦 結果	9
・芝草通信 NO. 2	10・11
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.14 ・ベラルーシ共和国新体操ナショナルチーム応援パネルを展示	12

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

最初に明成高等学校・中村勝彦校長が式辞を述べ、次に朴沢学園・朴澤泰治理事長・学事顧問が、本学園のこれからの教育事業への取り組みとして、学校間の接続に関する改革を行い、その取込みについては他に先駆け先導的に進めていくことを語りました。その一例として、教員の質および教育の質を向上させるために、体育科教員などの教員養成に関する仙台大学での4年間の勉強をさらに充実させ、明成高等学校での教育を教員養成に活用し、大学に入る前の高校教育の段階で基礎的な素養を勉強してもらうという発想の転換が紹介されました。続いて、教員養成のみならず調理・介護など、他の人材育成分野でも仙台大学との連携を明確化し、まさにこれから訪れてくる日本社会の姿を想定した取り組みを建学の精神である「実学創意工夫」の下に行っていきたい旨、話しました。最後に「出藍誉れ」（弟子が師匠の学識や技量を超えるという意味）である教育事業に、2020年12月完成予定の高校校舎立替えという「器」と先導的な高大接続という「魂」の両面で取り組んでいく決意を述べ、挨拶となりました。

宮城県知事代理で総務部参事兼私学・公益法人化の新妻直樹課長などにより、教育への永きにわたる情熱へ敬意を表するとともに、なお一層の発展を祈念するというご祝辞をいただいた後、朴澤泰治理事長・学事顧問から、学園にご功績ある元校長・元専務理事の小島信弥先生に対し、感謝状と令和の銘酒が記念品として贈呈されました。

「創立140周年 歴史を辿る」という演題での朴澤泰治理事長・学事顧問による講演会では、明成高等学校の卒業生で、現在、米国ワシントン州・男子バスケットボール名門であるゴンザガ大学の3年生であり、日本人初のNBA男子プロバスケットにドラフト1巡で指名されることを全世界から注目されている八村塁（はちむら・るい）選手をはじめ、たくさんの卒業生よりあたたかいビデオメッセージが紹介され、画面を食い入るように見つめる生徒たちは、時折歓声をあげながら素晴らしい先輩たちを称えていました。講演会終了後には、柴田町桜の会からお祝いに桜の苗木16本が寄贈され、その植樹式が執り行われ、記念品の一部として明成高等学校調理課を夫婦で卒業しベーカリー&カフェ3110（さいとう）という人気のパン屋を経営する齋藤雄貴さん・沙知江さんと生徒が手づくりした杜の都の「あんコパン」がふるまわれるなど、ほのぼのとした心に残る記念式典が幕を閉じました。

朴沢学園は、140年の歴史を受け継ぐべきもののキーワードとして①国際感覚を持つ②教員養成の機関③時代の要請を踏まえた実学（裁縫→調理・食育 福祉・介護 健康・スポーツ）を掲げ「創意工夫」の理念とともにこれからも優れた人材育成に努めて参ります。

みなさん、「創立150周年でまたお話ししよう」



漕艇部：第97回全日本選手権 男子舵手なしフォアで日本一



男子舵手なしフォア 優勝



女子クォド 3位 (学生1位)



女子軽量級舵手なしペア3位

5月23日（木）から5月26日（日）に戸田ボートコースにて行われた、第97回全日本選手権大会で、男子舵手なしフォアが日本一の快挙。また多くの種目で入賞しました。

全成績は下記の通り

開催種目は全16種目（男子9種目、女子7種目）

本学からは男子9種目、女子4種目の計13種目にエントリーし10種目で入賞

優勝1クルー、3位3クルー 他6クルーが入賞しました。（最多入賞数）

男子エイト	7位 (学生3位)
女子クォド	3位 (学生1位)
男子舵手なしフォア	優勝
男子舵手付きフォア	5位 (学生3位)
男子クォド	3位 (学生1位)
女子軽量級ペア	3位
男子軽量級ダブルスカル	5位
男子軽量級ペア	5位
女子ペア	5位
男子ダブルスカル	7位



女子クォド Finish直後

<報告：漕艇部>

ウエイトリフティング部：男子109kg級 保科 魁斗 (4年)が準優勝

4月26日（金）～28日（日）に大阪府羽曳野市で第65回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会ならびに第31回全日本女子学生ウエイトリフティング選手権大会が開催されました。

男子は、109kg級 保科魁斗(体育4年)が準優勝(この大会での男子の表彰台は、部において初の快挙)、55kg級 菊地亮雅(体育1年)が6位に入賞しました。

女子は、81kg級 福塚真羽(体育3年)が4位、76kg級 遠藤朱李(体育2年)が4位に入賞しました。平成の最後に飾るにふさわしい良い結果で大会は終了しました。新しい元号令和の時代でもウエイトリフティングが活躍できるように指導を続けていきたいと思ひます。

結果詳細につきましては、以下の通りになります。

【男子】

・62kg級	菊地亮雅 (体育1年)			
スナッチ	5位入賞	クリーン&ジャーク	6位入賞	トータル 6位入賞
・109kg級	保科魁斗 (体育4年)			
スナッチ	7位	クリーン&ジャーク	準優勝	トータル 準優勝

【女子】

・75kg級	遠藤朱李 (体育2年)			
スナッチ	5位入賞	クリーン&ジャーク	5位入賞	トータル 4位入賞
・90kg級	福塚真羽 (体育3年)			
スナッチ	4位入賞	クリーン&ジャーク	4位入賞	トータル 4位入賞



写真左 準優勝した男子109kg級 保科魁斗 (体育4年)

<報告：ウエイトリフティング部>

サッカー部：第99回天皇杯全日本サッカー選手権大会宮城県予選

4年ぶり3度目の優勝!! 全国大会出場!!

第99回天皇杯全日本サッカー選手権大会宮城県予選

仙台大学対ソニー仙台(13：00K0・みやぎ生協めぐみ野サッカー場A)

◇試合結果 仙台大学2-1ソニー仙台(前半1-0・後半1-1) 得点者：人見2

多くの皆様の応援、サポートに加えて、昨年から導入した週休2日制、今年から導入したHIIT、さらにベガルタ仙台吉田コーチ就任、平山コーチAチームコーチ就任、その他仙台大学サッカー部を支える他カテゴリーコーチ、学生スタッフ、さらに昨年までAチームを指導してくれたベガルタ仙台 瀬川氏のおかげで優勝することができました。選手、スタッフ一同、さらに仙台大学の発展に貢献していきたいと思っておりますので、引き続き変わらぬご愛顧をよろしくお願い致します。

<報告：サッカー部>



記念写真

サッカー部：第99回天皇杯全日本サッカー選手権大会全国大会1回戦

対 いわきFC 3対2 逆転勝利！ 次戦 J 2 横浜FCと対戦！

第99回天皇杯全日本サッカー選手権大会全国大会1回戦

仙台大学対いわきFC(13：00K0・とうほう・みんなのスタジアム)

◇試合結果 仙台大学 3-2 いわきFC(前半0-1・後半3-1) 得点者：人見1、嵯峨1、岩渕1

◇キャプテン嵯峨からのコメント

チーム全員が一つになり逆転勝利をする事ができました。天皇杯という一発勝負の戦いで、横浜FCという素晴らしいチームと戦う挑戦権を掴むことができ嬉しく思います。ここで満足することなく チームでしっかりといい準備をしてジャイアントキリングを起こしたいです。

2回戦は、7月10日にJ2横浜FCと対戦します。

<報告：サッカー部>



記念写真

女子バスケットボール部：南奥羽地区大学春季大会2連覇！！

5月26日（日）に山辺町民総合体育館にて行われた第40回南奥羽地区大学春季バスケットボール大会において、2連覇を達成することが出来ました。

準決勝の東北学院大学との試合は、後半からミスが目立ち、課題が多く残りましたが、決勝の山形大学との試合はその反省を生かし、最後まで全員が強気で臨むことができました。

今後は、東北地区大学体育大会があるので、チーム一丸となって優勝を目指し頑張ります。

・準決勝

仙台大学 81 (21-17 22-12 17-19 21-17) 65 東北学院大学

・決勝

仙台大学 113 (39-24 20-19 31-15 23-19) 77 山形大学

<個人賞受賞>

最優秀選手賞 三須 秋穂 (運動栄養3年)

優秀選手賞 千葉 沙希 (体育3年)

優秀選手賞 石田 実希 (体育2年)

新人王 高橋 智歌 (子ども運動1年)

<報告：女子バスケットボール部>



記念写真

体操競技部：NHK杯でも存在感

5月19日(日)に第58回NHK杯体操男子が東京・武蔵野の森総合スポーツプラザであり、本学の南一輝(体育2年)は種目別の床運動で14,800点(D点6,400、E点8,500、減点0.100)をマークし1位になりました。

ワールドカップ(W杯)派遣の目安となる14.9点までは惜しくもあと0.1点及びませんでした。今度は来月22(土)、23(日)の両日に群馬県・高崎アリーナで行われる全日本種目別選手権に期待がかかります。

NHK杯はこのほか、個人総合に松見一希(体育4年)が出場し総合243,727点で24位でした。いずれも床運動に臨んだ松田光平(体育3年)は14,166で8位、青木翔汰(同3年)は13,700で24位でした。

<報告：体操競技部>



NHK杯に出場した(左から)松見、青木、松田、南

体操競技部：全日本インカレへ弾み 男子3位、女子7位

5月25日(土)、26日(日)の両日、体操の東日本学生選手権(東日本インカレ)が岩手県一関市の市総合体育館で行われ、仙台大学は男子団体総合で3位に入り、女子団体総合が7位でした。個人種目は男子あん馬で池田大騎(体育4年)が見事優勝しました。

男子団体はし烈な争いでした。実力としては順大、日体大がやや頭一つ抜けた感じではありますが、本学は池田のほかに松見一希(体育4年)、篠原夕人(同4年)、青木翔汰(同3年)、山根直記(同3年)、寺地祐次郎(同3年)の編成で臨み、筑波大、早大、駒大、日大を抑えて総合404,150点で3位にくい込みました。来る全日本インカレ(8月20~22日・山口市)に大いに弾みがつきました。1位は日体大(総合417,200点)、2位順大(総合416,600点)でした。

個人種目別でも仙台大勢は活躍しました。あん馬を14,600で制した池田のほかに、つり輪で山根が、鉄棒で青木がそれぞれ2位と気を吐きました。さらに床運動で青木が5位、跳馬で山根が6位に入りました。個人総合は青木8位、松見10位という成績でした。

女子団体総合の仙台大の得点は232,850です。個人種目別では藤本亜祐奈(体育2年)が8位に入る健闘を見せてくれました。

会場では今大会も大勢の皆様からご声援をいただきました。厚く御礼を申し上げます。

<報告：体操競技部>



東日本インカレで活躍を見せた仙台大の男女体操陣。個人枠で出場した選手も含めて「ハイ、ポーズ！」

男子ソフト部：6年ぶりインカレ出場決定(28回目)

第40回北海道・東北地区大学男子ソフトボール選手権大会(兼)第54回全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北地区予選会が5月11日(土)と12日(日)に福島県郡山市のふるさとの森ソフトボール場で行われました。

仙台大学は第2シードでの出場となり、準優勝で6年ぶり28回目のインカレ出場を決めました。

<結果>

一回戦 vs 日本大学工学部 ○15-12

準決勝 vs 東北大学 ○4-3

決勝 vs 北海道大学 ●8-11



記念写真

文部科学大臣杯第54回全日本大学男子選手権大会(インカレ)は9月5日(木)から富山県の富山市民球場他で行われます。

今後とも応援していただけるよう努力してまいります。

<報告：男子ソフトボール部>

柔道部：東北学生柔道優勝大会で男女同時優勝！

5月19日、東北学生柔道優勝大会が宮城県立武道館で開催されました。この大会は、6月に日本武道館で行われる全日本学生柔道優勝大会の東北予選に位置づく大会となっています。女子においては、15年連続の優勝となり、現在の制度になってから13連覇となりました。一方、男子は3年ぶり3度目の優勝となりました。現在の指導体制となってからは初めての優勝となりました。

大会当日は、世代を超えて多くの卒業生の方が会場にお越しいただき、応援いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

来月開催される全日本学生柔道優勝大会では、諸先輩方からの応援を背に、これまでを超える結果を目指したいと思います。今後ともご声援の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

<報告：柔道部>



記念写真

男子バレーボール部：活動報告 春季リーグ最終週（リーグ戦4連覇）

第54回東北バレーボール大学男女リーグ戦が4月20日（土）から開幕し、リーグ戦最終週の18日（土）は山形大学、19日（日）は東北学院大学と東北福祉大学福聚殿にて対戦しました。

山形大学とはフルセット、東北学院大学との第三セットはデュースまでもつれ込むなど、苦しい場面が多くありましたが勝利することができました。

これで全試合が終了し、予選リーグ、順位決定リーグを10勝0敗で全勝し、一昨年の秋季から続く、4連覇を達成することができました。

また多くの個人賞を受賞することができました。

- # 1 高橋生祈 最優秀選手賞、レシーブ賞第1位、サーブ賞第1位、
- # 4 飯田頼 ベストディガー賞、レシーブ賞第2位
- # 十文字龍翔 スパイク賞第1位
- ベストオブサポート賞 仙台大学

1か月後には東日本インカレがあります。

春リーグで出た改善点を克服し、優勝した勢いをそのままに東日本インカレを戦っていきたいです。

今後も男子バレーボール部の応援のほどよろしくお願いたします。

<報告：男子バレーボール部>



胴上げをされる中村新助手



試合中声を掛け合う様子

硬式テニス部：東北学生春季テニストーナメント大会の結果

東北学生春季テニストーナメント大会

泉総合運動場、川内庭球場、東北大学川内キャンパス

男子ダブルス

準優勝 大久一真（体育学科3年）・遠藤亜蘭（体育学科3年）

女子シングルス

第4位 菌部優姫（運動栄養学科2年）

今大会の結果により、全日本学生テニス選手権大会（8月7日～21日：岐阜）へ男子ダブルス1組、女子シングルス1名の出場が決定いたしました。

沢山のご声援をいただき、ありがとうございました。

<報告：硬式テニス部>

宮城県議会スポーツ振興調査委員会が本学を視察



LC棟で協議の様子



トレーニングセンターやATルームを視察された様子



5月10日（金）宮城県議会スポーツ振興調査特別委員の方々が入学され、東京2020オリンピック・パラリンピックホストタウンの現状と課題について、視察されました。

初めに柴田町 滝口町長、柴田町議会 高橋議長より柴田町の紹介と現状の報告がなされ、次いで朴澤理事長、遠藤学長から本学の紹介及び挨拶がありました。

東京2020オリンピック・パラリンピックホストタウンの取り組みとして柴田町より、これまで2016年2月に白石市・柴田町・仙台大学の3者が連携し、東京オリパラ事前合宿招致推進協議会を発足し、2017年7月に柴田町と白石市がホストタウンに認定され、これまで2度のベラルーシ新体操ナショナルチームの事前合宿「SAKURA CAMP」が行われたことなど、これまでの経過報告がありました。

朴澤理事長からは2002年から仙台大学と国際交流協定を締結しているベラルーシ国立体育・スポーツ学院とこれまでの交流の様子や、事前合宿中の様子を映像で紹介しつつ、7月27日（土）に行われる「SAKURA CAMP2019」に向けて、オリンピックで使用される公式マットの確保などの現状と課題について報告しました。

協議終了後、実際に「SAKURA CAMP2019」公開演技会を予定している第5体育館や、体育大学ならではのトレーニングセンター、アスレティックトレーニングルームの施設を見学され、お褒めの言葉を頂くとともに、関心を持っていただくことができました。

アスレティックトレーナー部：ストレッチ・テーピングでランナーを支える



今年も多くの方々のご利用いただき、取り組む学生たちの様子

第29回仙台国際ハーフマラソンにて、アスレティックトレーナー部12名がボランティアとしてランナーにストレッチ・テーピングを行うブース活動に参加しました。このボランティア活動は、本学陸上競技部部長の名取英二教授の繋がりから実現したもので、本学開学50周年を機に始まり、今年で3回目の参加となりました。

今年は合計197名のランナーに利用していただき、多くの笑顔、喜びや感謝のお声をいただきました。

「テーピングのおかげでハーフマラソンを初めて完走することができた」

「ストレッチのおかげで体の動きが全然違った」

「毎年利用しており、来年も是非またお願いしたい」

ボランティアに参加した学生らは、ランナーの方々からいただいた感謝を力に、今後もスポーツに関わる様々な活動に取り組んでいきますので、ご支援・ご協力いただければ幸いです。最後に、OBや本学教職員らにもブースにお立ち寄りいただき、学生らに激励のお声をいただきました事に感謝いたします。

<報告：アスレティックトレーナー部>

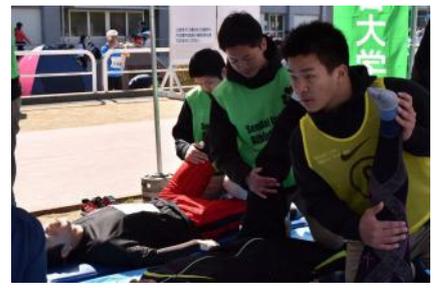
第26回郡山シティーマラソン大会の協力をしました



記念写真



200名のケアを行うA T部の学生の様子



4月29日（日）福島県にある郡山ヒロセ開成山陸上競技場で開催された第26回郡山シティーマラソン大会に、本学アスレティックトレーナー部学生総勢16名が大会支援を行いました。支援内容は、各ランナーからの個別相談やテーピング、アイシング、ストレッチなどを対応しました。

郡山市のご配慮で本学アスレティックトレーナー部のブースをアップ会場に設営して頂いたこともあり、約200人を超える各ランナーのケアや相談に、学生たちは休む間もなく熱心に取り組みました。学生の激励にお出でいただいた、品川 万里 郡山市長から「仙台大学生の意識の高さを感じることができた」との称賛のコメントも頂きました。また当日学生たちは早朝より会場入りしたこともあり、鶴田 雅之 福島県同窓会事務局長と本学卒業生（21期生）尾形栄一様から学生全員へ朝食の差し入れを頂くなど、多くの県人会の方々から激励や差し入れを頂きました。

今回のA T部学生の活動を通じて、鈴木のぞみ助手と内野洋材助手の学生へ対する日頃の指導の成果が随所で垣間見られたこと、そして同窓生を取り込みながら仙台大学の大きなPRができたことを実感いたしました。

<報告：江尻雅彦教授>

明成高校運動部の新入生に対するコンディションチェック（FES）を行いました



記念写真



測定員として取り組む本学学生の様子



4月27日（土）仙台大学川平アスレティックトレーニングルームにて、明成高校に属する4部活動（女子バスケットボール部、女子サッカー部、陸上競技部、男子バレーボール部）の新入生を対象としたFreshman Entrance Screening (FES) を実施しました。FESは下肢アライメント、柔軟性、筋力、そして安定性等の身体機能を測定するコンディションチェックで、得たデータを基に傷害予防に努めます。

今回は仙台大学学生（AT部およびS&Cインターン生の計14名）も測定員として参加し、研鑽を積む良い機会となりました。姉妹校の強みを活かして、大学と高校にて研修できる場をより多く提供していければと思います。

<報告：川平アスレティックトレーニングルーム>

令和元年度 仙台大学同窓会「社員総会」開催

今年度の「社員総会」が5月18日（土）にホテル原田インさくらにて開催されました。

全国28支部中、22支部の支部長（6支部は委任状提出）、事務長、同窓会本部からは理事、役員など10名、総勢32名が出席しました。

総会では、平成30年度の同窓会事業に関する報告並びに会計報告、令和元年度事業計画、予算について提案がありました。協議事項では同窓会としての継続の事業、新事業計画、海外留学奨学金、定款の変更、新役員の選考、支部活動について活発な議論がなされ、今後の同窓会活動の更なる活性化が期待される総会となりました。

引き続き行われた懇親会では、朴澤理事長、遠藤学長も出席し、各支部の活動状況などの報告もあり、和やかな雰囲気の中で同窓生相互の交流が深められ、盛会のうちに閉会となりました。

<報告：同窓会事務局>



避難訓練を実施しました



訓練中の様子

5月29日（水）「講義を受けている学生」約600名を対象に大規模地震を想定した避難訓練を実施しました。

15時35分、震度6強の揺れを想定した「緊急地震速報」が放送されると教員が学生に、身の安全を確保するよう防護を指示しました。

約30秒の地震疑似音後、教員は安全を確認後、学生へ避難場所への移動を指示し、各教室から陸上競技場へ移動し、避難が完了しました。

安否確認終了後は防火・防災管理者である遠藤 営繕管理室長が「実際に災害が起こった時、どこに避難して自分の身を守るか常に考えて行動してください」と話しました。

また避難に参加した学生からは「東日本大震災を思い出し、改めて避難訓練は大切だと感じました」「実際に避難経路を確認することができ、いざという時に慌てずに行動したいと思います」や「いざという時に訓練を積み重ねることが大切だと感じました」などの声がありました。

バドミントン部：第66回東北学生バドミントン選手権及び令和元年度東北学生バドミントン春季リーグ戦 結果

5月24日（金）～5月30日（木）まで山形県体育館で開催された、第66回東北学生バドミントン選手権及び令和元年度東北学生バドミントン春季リーグ戦で、女子ダブルスの松田/徳能が3位となり、10月のインカレの推薦出場権を獲得しました。

なお、上記2名は昨年度インカレ32強であるので、8月の全日本学生ミックスダブルス選手権への出場権も獲得しています。



記念写真

○春季リーグ戦

男子1部（4位）入替戦にて1部残留
女子1部（3位）

○選手権

- ・男子シングルス
 - 5位 成田行磯（体育1年）
 - 16強 舘田悠汰（体育2年）、本間雄大（体育2年）、山口将史（体育2年）
- ・女子シングルス
 - 5位 徳能あすか（現武3年）
 - 16強 松田ほのか（体育4年）
- ・男子ダブルス
 - 8位 清野祐介/山口将史（健福4年/体育2年）
 - 16強 成田行磯/伴野匠（体育1）、塩沼直希/舘田悠汰（体育2）、佐藤倅心/中島光人（健福1）
- ・女子ダブルス
 - 3位 松田ほのか/徳能あすか（体育4年/現武3年）
 - 16強 斉藤はるほ/本松佑里香（運栄3年/スポ情1年）

8月、9月に行われる東日本インカレにてインカレの出場権を狙うべく今後も練習に取り組んでまいります。
<報告：バドミントン部>

芝草通信 NO. 2

担当：小島文雄体育施設管理コンサルタント

1. 噴水周り天然芝生《A地区（正門隣）、B地区（三体前）、C地区（四体前）》

前回連休明けを予定していた開放時期は、雑草の生育が激しかったので再度除草剤を散布し、又降水量が少なく、暖地型芝生の生育が良好で無い為に少し遅れています。

暖地型日本芝生高麗芝は比較的踏圧に強いとされておりますが、通行などで繰り返し踏みつけられるとダメージに耐えられなくなります。芝生の中をショートカットして学食に行く学生を見かけますが、通行の為に入るのはご遠慮ください。ひとときの休憩や視覚での天然芝生の癒しを感じてください。

特にパイプ椅子を持ち込んで休憩することは脚の部分4か所に全体重の1/4ずつ重量が掛かります。単位面積当たりの荷重は歩く時の足裏にかかる負荷より大きくなります。ベニヤ板やパネルの上にパイプ椅子を置いて使用すれば大きい面積に分散しますので、単位面積当たりの荷重は低減されます。このことは体育館にピアノを持ち込む時の注意事項（フローリングを傷つけない為の配慮）と同じです。

又長時間ベニヤ板・シートやリックサックなどを放置して太陽光線を遮ることも芝生にとっては悪影響ですので、ご協力ください。

緑色植物が行なう光合成は、太陽の光エネルギーを吸収して、二酸化炭素と水から有機物を合成し、この物質にエネルギーを蓄える反応です。植物が合成する有機物は、生態系の中では全ての生物の栄養源となり、この事から解るように芝草の生育に太陽光線は大変重要なことです。大木の下や樹木の密集している所には【耐陰性の芝草】が使用されています。神戸ウイングスタジアムや大分スポーツ公園総合競技場など全天候開閉式の球場では、太陽光線が短時間しか当たらない場所が有り、維持管理に大変苦勞をして様々な工夫を凝らして、新国立競技場も同様の問題が有ります。

開放する前に授業の一環として下記の実習を行ないました。

(1) 『スポーツ施設管理概論Ⅰ』の授業「天然芝生の維持管理」として

- ① A地区(八巻担当)：乗用ロータリーモア草刈り機による実演・実習
- ② B地区(小島担当)：手引き式リールモア草刈り機(10台)による実習〈写真 1〉
- ③ C地区(野口担当)：エンジン付き手押しリールモアによる実演・実習
- ④ Putting Green(八巻担当)：乗用スイーパーによる刈り粕清掃の実演〈写真3〉
- ⑤ Putting Green(八巻担当)：手引き式エアレーションによるコア抜きの実演

(2) 『スポーツターフ管理概論Ⅱ』の授業「高さ測定機器の理論と実習」として

- ① C地区(小島・野口担当)：受講生を4班に分け、各班に1台のオートレベルを配置して、機器が水平に設置出来たことを確認して、最初に基準点を測量し、5箇所の高さを測量した。基準点に戻り誤差が有ればやり直す。その結果を班ごとに黒板に発表してそれぞれの班の誤差を精査した。結果は良好でした。

- <5月に行なった管理>
- (1) 茎葉処理の除草剤を散布(広葉雑草駆除)・・・追加
 - (2) 散水：移動式小型スプリンクラー〈写真2〉
 - (3) 肥料散布
 - (4) 雑草抜根



<写真1>手引き式リールモア草刈り機(10台)による実習<Bブロック>



<写真2>移動式小型スプリンクラーによる散水<Cブロック>



<写真3>乗用スイーパーによる刈り粕等の清掃実演<Putting Green ブロック>

2. 第二グラウンド，天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場

噴水廻りの芝生が【暖地型日本芝】に対して，このグラウンドの芝草は【寒地型洋芝】をメインにしていますので維持管理の方法が全く違います。近年，宮城県の夏季の高温期間は長くなり寒地型洋芝の育成が困難になっています。Jリーグが使用する県営グラウンドや仙台市のグラウンドでは高温化対策に苦心してミスト散水・送風機による通風での気温降下や使用制限などにより克服して，年間を通して寒地型洋芝を維持しています。関東以西では，暖地型洋芝をメインにして冬季衰退期に暖地型洋芝を短く刈りこんで，その上から寒地型洋芝の種をまいて草種転換（Over Seeding）して，年中緑の芝生を育てています。このことを【Winter Over Seeding (W.O.S.)】と言って，日本全国の多くの競技場で実施しています。しかし，仙台大学のグラウンドでは，この逆を行って，夏季の高温時（6月中旬から10月中旬）には【寒地型洋芝】の上に【暖地型洋芝】のパミュダグラスをOver Seedingして育成しています。すなわち【Summer Over Seeding (S.O.S.)】で，いわゆる『二毛作』です。現在はS.O.S.が定着しており，夏季の異常高温気象でも100%の被覆率を維持しています。この事は全国でも珍しい例題となっています。グラウンドのような大きな面積での暖地型洋芝の生育の効果が宮城県の気象条件では疑問視されていたことが払拭されて，仙台市内のJリーグの練習場に暖地型洋芝（テイフトン419）が採用される先駆けとなりました。

- <5月に行なった管理>
- (1) 乗用3連ロータリーモアによる草刈，3回
 - (2) 乗用3連リールモアによる草刈，2回/週
 - (3) 散水：スミレインの孔明ホース（50mm×100m）
 - (4) 手引きスプレッダーによる肥料散布
 - (5) 除草ホークを使用して人力による雑草抜根



<写真4>寒地型芝生全景<ラグビー・アメリカンフットボール場東側>



<写真5>寒地型芝生遠景<ラグビー・アメリカンフットボール場東側>



<写真6>寒地型芝生近景<ラグビー・アメリカンフットボール場東側>



<写真7>寒地型芝生接写 <ラグビー・アメリカンフットボール場東側>



<写真8>暖地型芝生(パミュダグラス)接写<ラグビー・アメリカンフットボール場東南角>

担当：小野 勇太助手

川平アスレティックトレーニングルーム(ATR)では、本学アスレティックトレーナー(AT)部の学生達が、AT現場実習として、続々と来ています。船岡キャンパスと川平ATRのある川平キャンパスでは、決して近い距離ではありませんが、キャンパス間を学内定期バスが出ているので、移動手段に困ることはありません。現在実習に来ている学生達は、先月開催したFreshman Entrance Screening(FES)に協力してくれた学生達で、高校ATの魅力を感じ更なる実習のために引き続き来てくれています。川平ATR現場実習は、現在見学実習を主な活動内容としています。「高校AT」という仕事とは何かを、我々川平ATRスタッフの活動を直接見て、話を聴いて普段の大学ATとの違いを学んでいます。加えて、ストレンクス&コンディショニングコーチ(S&Cコーチ)も常駐しているため、ATとS&Cとの連携や、それぞれの専門性の違いについても学べます。普段、大学生を相手に活動している実習生達は、取り組みの大きな違いに関心を持ち、ノート1ページびっしり埋まる程にたくさんの気づきや学びポイントをメモしている姿が印象的です。積極的に我々スタッフだけでなく、高校生達とコミュニケーションを取り、普段の活動(大学生相手の対応)との違いや共通点について深く学習したようでした。

本学では、大学内にATRが設置されているだけでなく、姉妹校である明成高校へのサポートとして高校ATRも設置された、国内でも数少ない素晴らしい施設を有した大学です。施設だけでなく、それぞれに高度な専門性を有したスタッフが常駐していることもトレーナー領域における本学の魅力の1つです。

また、有資格者の背景として国内資格を所有する者、米国資格を有する者の両者が各施設内にいることは、ATやS&Cコーチとしての活動が国内に留まらず米国や海外へも視野を広げるきっかけと成りえます。ATを志す学生にとって、様々な活動現場、様々な専門家が常駐していることは、自分の将来を切り開く上でたくさんの刺激となり、素晴らしい学習環境であると思います。

我々川平ATRの活動理念の一つとして「高校スポーツの安全を守る」を掲げておりますが、そんな我々の理念に共鳴する未来の専門家(ATやS&Cコーチ)の育成や輩出も、我々川平ATRにとっての重要な役割の一つです。社会にとって有益な専門家が普及していくことは、日本が抱える健康やスポーツの抱える各種問題解決の一端を担うと信じ、川平ATRの活動を今後も精進していこうと思います。



①写真左：AT学生、右：高校生



②写真左：AT学生、右：高校生



③S&C指導を見学するAT学生(写真右)

ベラルーシ共和国新体操ナショナルチーム応援パネルを展示

2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、本学は、2017年6月に、ベラルーシ共和国のホストタウンとして協定を宮城県柴田町、白石市、ベラルーシ体操協会の4者で締結し、2017年から2020年にかけての事前合宿を実施する予定としています。

下記の日程で、柴田町協力のもと、これまでに行われた、過去2回の事前合宿中の公開演技会の様子を「ベラルーシ共和国新体操ナショナルチーム」応援パネル展として展示しています。

是非ご覧ください。

展示に関しては役場及び各学習センターを以下の日程で展示する予定となっております。

- 【令和元年6月3日(月)～7月26日(金)】
- ・役場町民ホール 6月3日(月)～6月13日(木)
 - ・船迫生涯学習センター 6月15日(月)～6月27日(木)
 - ・槻木生涯学習センター 6月29日(月)～7月11日(木)
 - ・船岡生涯学習センター 7月13日(月)～7月25日(木)

